

# 虹の架橋

## 今月の題字

坂本寛明さん

(太田市矢田堀町)

先月の虹の架橋で紹介した『何かの役に立つ足尾銅山の話』の著者。坂本さんと話をしていると穏やかで温かい人柄が伝わってきます。

大祭や売店は自肅の牡丹寺  
♪花は花は♪花は咲く♪

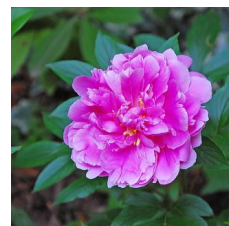
「ぼたん寺」の愛称で親しまれる新里町新川の曹洞宗龍真寺は今年もピンクに始まり、赤や紫、少し遅れて白や黄色など2500株の牡丹が次々に開花しました。新型コロナウイルスの感染防止の観点から、大祭や売店は自肅、団体客などもおらず、車椅子の方でもゆつくりと新緑の境内を散策することができるとしています。



段差のない境内には曹洞宗の開祖・道元禅師の「春は花夏ほととぎす秋は月冬雪さえてすさしかり



けり』や『閑(いたづら)に過ぎず月日は多けれど道をもとむる時ぞすくなき』などの歌碑や『吾只知足』の蹲(つくばい)もあり、四季の花が心を和ませてくれます。県道沿いの龍真寺入口駐車場にある石のカエルの周りには芍薬があり、5月上旬には見頃を迎えますので車に乗ったままでドライブスルーの花見も楽しめそうです。



密集、密閉、密接を避け、自肅はしても委縮はしないよう工夫して日々を過ごしましょう。

虹の架橋「検索」で、インターネットからでもご覧いただけます。

小耳にはさんだ  
いい話  
(文責・靖)  
《297》

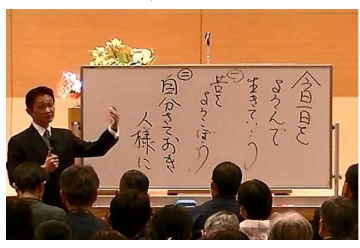
## 感謝力は掛け算

2001年に始めた「まごころ塾」という勉強会が114回をもって最終回となりました。「出会いには心の花を咲かせる」を名刺にも刷り込んでいた高崎市故・内堀一夫先生が塾長だったまごころ塾のお陰で貴重な出会いと学びを頂きました。第1回の講師はカー用品のイローハットの創業者の鍵山秀三郎さんでテーマは「小さく始めて大きく育てる」でした。そして、大きく育ったまごころ塾の最終回は、伊勢修養団の寺岡

賢先生の「大和心に親しむ」というお話で、最終回にふさわしい深い内容の講演でした。寺岡先生は「出逢いを通して自分に出逢う」、「今日一日をよるこんで生きていこう」、「苦をよるこぼう」などの言葉を紹介し、「物事を成就させるには法則がある。能力や才能や運や努力は全て足し算だが、それを最後にひっくり返る掛け算にするものがある、それが感謝力です。だから、どんなに能力があっても努力をしても感謝力が70パーセントであれば値は0.7になり、逆に能力や才能に多少恵まれなくても感謝する

力が人の1.5倍あればいかなり値は大きくなる。だから、苦しいことや辛いこととがあってもそれは自分にとって意味のあることだと受け止めた時に感謝力は強くなるような気がします」と言っていて会場から共感の拍手が沸き起こりました。

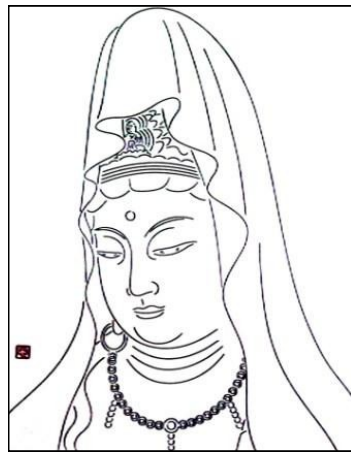
先日、「大きな努力で小さな成果を」という本をいただいで読みました。著者の鍵山秀三郎さんの「凡事徹底」や「益はなくとも意味はある」という生き方を集大成した本で、一つ一つの事に共感しました。鍵山さんは、「なるべく手間暇かけずに、また人手をかけ



切にしたいと思います。まごころと感謝の心を大切にしたいと思っています。

今年のは、桜が咲いても小鳥のさえずりを聞いても心が晴れず、鉛色の重苦しい空気に包まれた日々が続いています。今まで当たり前のように友達同士で集まり、食事をしたりと生活がどんなに幸せなことだったかを気づかされました。緊急事態宣言が発令されて不要不急の外出を控え、自肅、休業などの要請を受けて、多くの店が営業時間を短縮したりシャッターを下ろしています。このままシャッターが上がらなくなるという心配のないよう祈るばかりです。

## 世界一小さな定利屋 トイレ美術館



武田仁さん『白衣観音立像』

仏画家の武田仁さんに描いてもらった「白衣観音菩薩立像」は我が家の家宝のひとつです。この絵の裏には仁さんが祈りを込めて丁寧に書いてくださった般若心経が写経されています。武田仁さんの「こころがつかれたら開いてください」という本にもこの絵が紹介され「本当の親友とは」という文章が添えられています。「自分が本当に困難に出会った時、一緒に涙を流してくれるひとがいますか。そのひとを思い出すだけで勇気が湧いてくる、そういうひとが本当の親友です」と書かれています。合掌

## 靖ちゃん日記

令和二年四月十三日(月)  
みどり市から依頼を受けていた布マスクが全て出来上がり、今日宛納した。「マスク不足で困っている高齢者施設などに配るための布マスクが作れませんか」という打診があったから晒やガーゼを扱う間屋さんへ何軒も当たりましたが、無理を承知でお願いし、裁断屋さんにも協力してもらった。みどり市周辺の十五人の内職さんが頑張ってくれて、立体型布マスク五千八百枚を三週間経て縫い上げた。途中で晒やガーゼが無くなるのでは、と不安になったが間屋さんに助けられた。出来上がり、できたマスクを検品し、スペアカーでとメッセージカードを袋に入れて作業が返いつかず手伝った。買物に来たお客さんが「あら、忙しそうね。ネコの手も借りたいものね」と言った。「オレはネコの手が」と思わず笑ってしまった。借りてきた猫のようになり目をそらして「はい」と猫で声で答えた。

第二百九十八号は六月一日(月)発行予定です。

♡やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん